

# ICTを活用した教育現場の今

市は、緊急時でも子どもたちの学びの機会を守るために、オンラインと対面の良さを生かしながら取り組みを進めています。今回の特集では、ICTを活用して、一人一人に合わせた支援を行う教育の今を紹介します。

問い合わせ 教育保育課 ☎ 072(740)1212



## オンライン × Online Classroom × 対面



## 子どもたちの学びを守る

時間や場所にとらわれない学習環境を整備。タブレット端末を使った新たな学びは、子どもたちの主体性を育みます。



など、教育現場は大きな打撃を受けました。

ICTを活用した学習  
教育現場では、子ども同士で教え合い、それぞれの考えを基に新しいものを生み出す「協働的で創造的な学び」が理想として考えられていました。それを実現するために、子ども同士の意思疎通などをサポートするICT（情報伝達技術）環境の整備が求められていました。

しかし、平成30年まで、市ではタブレットなどが導入されていませんでした。

令和元年に、市教育委員会はタブレットモデル校を選定し、数十台のタブレットを学校に配備。クラブ活動などでも活用が始まりました。

その半ばで始まったコロナ禍。休校などで、子どもたちの学びの機会が失われ、在宅オンライン学習に対応する通信環境の整備などが早急に必要となりました。

2年から段階的に導入していく予定であったタブレット端末を、国の交付金を利用して、2年12月には全児童・生徒に1台ずつ配備。時間や空間にとらわれない学びや、学習アプリで子どもたちが協働して何かをつくりあげることなどが可能になりました。成績データを蓄積し、一人一人に合わせた学習プランの設計もできます。

また、3年10月には、全ての市立学校園所で連絡アプリを導入。小・中学校では今後、自動採点システムも運用していきます。

ICTの活用で、子どもたちの学びを守るとともに、教職員の負担を軽減し、より充実した教育につなげていきます。

### オンラインと対面を併用

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、学習の遅延

一方で、子どもたちの主体性を育むために有効なICTは急速に進みました。それを生かして、子どもたちが今まで得ることのできなかつた学びを実現させています。

3年の4回目の緊急事態宣言時に2学期を迎える際には、学校へ行きたくても感染を不安に感じている子どもへ対応するために、オンライン授業を実施しました。

今後も感染状況に応じて、全小・中・特別支援学校で、対面授業かオンライン授業かを選択できるようにするなど、柔軟に対応していきます。

オンライン授業は課題などもあり、対面授業と同じように行うことはまだ難しいかもしれませんが、全ての子どもへ学びの機会を平等に提供するために、質の向上に努めます。

学校と家庭をつなぐ

## 連絡アプリ ミマモルメ

3年10月から、市立学校園所で、学校と保護者、子どもをつなぐアプリ「ミマモルメ」を導入しました。

学校と電話が繋がらない夜や早朝の時間帯でも、欠席・遅刻の連絡を同アプリ上で行えるようになりました。学校は、朝の授業前の忙しい時間に、自動で連絡を受け付け可能。授業以外の業務をスムーズに進められるようになり、先生の業務負担の軽減につながっています。



担任が朝礼時にアプリで出欠確認

### Interview

#### 保護者の視点も取り入れて活用を



川西小学校PTA会長  
本田 美佐子さん

学校からの通知がデータで残っていくので助かります。保護者同士の話の中で、アプリの使い方についてアイデアが出てくることもありますね。保護者目線で気付いたことを伝えて、効果的に使っていくことが大切なんだと感じています。

#### 効率的に正確な情報を管理できる



川西小学校教諭  
相原 健也さん

以前は、連絡を他の先生や子どもから、口頭やメモで受け取ることもありましたが、今は正確な情報を直接担任が確認できます。タイムリーな発信も可能で、学校と保護者の信頼関係の構築にも役立てていきたいと思っています。

## Interview

タブレット端末やデジタル教科書で、授業や普段の学習がどのように変化したのか、生徒2人と先生に話を聞きました。

### 自動保存できればもっといい

川西南中学校2年生 宗次 冬生さん

体育の授業中に、タブレットで動画を撮影して、体の動きを自分で確認したんです。正しいフォームへ改善するのに役立ちました。

デジタル教科書にメモやマーカーをした時に保存し忘れて消えたことがあるので、自動保存機能があればもっと便利だと思います。



### 自宅での学習に活用できる

川西南中学校2年生 鶴岡 夕楓さん



自宅で勉強する時に、調べたり復習したりするのにデジタル教科書を使っています。自分のスマホも持っていますが、他のアプリの通知が来ると気が散ってしまうこともあるんです。タブレットは必要な情報だけが集約されているので、学習に集中できます。

### 自分に合った学習方法を見つける

川西南中学校 英語教諭 大石 沙耶香さん

デジタル教科書の導入により、教科書本文を英語のリスニング教材として活用することが増えました。生徒はディクテーション※や音読練習に個々のペースで取り組んでいます。

紙媒体の教材も併用しながら、それぞれに合う学習方法を一緒に見つけていきたいです。

※音声で流れてくる英単語を書き取る学習法



# 主体的な学びをサポート

デジタル教科書の導入によって、自分のペースで学習することが可能に知識を生かし、自分の考えに基づいて行動できる力を育みます

暗記よりも思考を重視  
双方向型の教育

社会の情報化が進む今、主体的に物事を考えられる人材が求められています。従来行われてきた「講義型」の授業は、知識のインプットに重きが置かれていました。

しかし、主体的な学びでは、黒板の内容を書き写すことが最も重要なことではありません。学習で得たものを生かして、アウトプットする時間を充実させることが大切です。

子どもたちが主体的に学習に取り組み、先生ともにつくりあげる「双方向型」の授業。実現に向けて、大きな役割を担っているのがデジタル教科書です。

自分のペースで  
学習を進められる

講義型の授業では、クラス全体で学習の進度がそろっていません。デジタル教科書では、生徒が自分のペースで動画を見たり、ネイティブスピーカーの音声再生したりすることが可

能。理解するまで復習できるなど、自分で学習進度をコントロールできます。書き込みや読み上げ機能などによって情報の整理や可視化が容易。また、アニメーションなどを通して、学習内容への興味や関心を向上させています。先生は指導者用のタブレットで一人一人の進度を

確認し、個々に合った学習プランを立てられます。デジタル教科書の活用で主体性を伸ばす

現在、市内全ての小・中学校で、紙の教科書と併用して複数教科に指導者用のデジタル教科書を導入しました。一部の小・中学校では、学習者用のデジタル教科書を試行導入しており、今後、さらに活用していく予定です。ICTを使う事自体がゴールではありません。知識を生かした活動を充実させるサポートとなること目的です。子どもたちの主体性を高め、社会に適應できる力を育てていきます。



## 誰も取り残さず学びを支援

市長 越田 謙治郎

第6波が到来し、市内の学校でも臨時休校や学級閉鎖を余儀なくされています。子どもたちや保護者の皆さまにはご不便をお掛けしますが、感染拡大を防ぐための措置としてご理解ください。

市ではコロナ禍であっても学びを止めないために、教育現場でICTを積極的に活用しています。もちろん、今後も改善の余地はありますが、試行錯誤し

ながら取り組んでいますので、ご理解をいただければ幸いです。

また、市はこの取り組みをコロナ禍の一過性のものにするつもりはありません。子どもたちの多様性を尊重し、誰も取り残さない形で学びを提供できる仕組みにつなげていけるよう、学校現場や教育委員会を引き続き支援してまいります。

## 新たな力を引き出す一助に

教育長 石田 剛

ICT環境が充実したことによって、学校教育における「学び」が変わろうとしています。

ICTの活用によって、子どもたちが自分自身で学びの道すじを考え、相手に分かりやすく伝える「探究的な学び」がより進められていくでしょう。

また、個々の子どもたちが「探究的な学び」で得たものを発信し交流する

など、子ども同士が学び合う「協働的な学び」の機会も増えています。

教育委員会として、これまでの学校教育とICTの良い部分を生かして、一人一人の力を最大限に発揮できるようサポートします。

今後も、個々の特性に合わせた「探究的な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていきます。

